

インテージグループの事業

Service

インテージグループの事業領域

インテージグループは『マーケティング支援（消費財・サービス）事業』『マーケティング支援（ヘルスケア）事業』

『ビジネスインテリジェンス事業』の3つのセグメントで構成されています。

グループにおける事業領域は、下記図のようにセグメント間を横断しているものがあります。

すべてのセグメントにおいてリサーチならびにデータビジネスをコアとしながら、ヘルスケアにおいてはCROおよび広告業を、ビジネスインテリジェンスにおいてはシステムインテグレータならびにグループ全体の情報インフラを担う機能を持っています。

成長戦略 マーケティング支援（消費財・サービス）事業

- **国内** 生活者の多様化・市場飽和によるマス・マーケティング効果の逡減
- **海外** 国内市場縮小を受けたお客様のグローバルシフトの加速を踏まえ、協業、M&A、R&Dを実施しながらコア事業をベースとして事業拡張を行っていく



成長戦略 マーケティング支援（ヘルスケア）事業

- 医療消費者に関するデータやサービスの重要性の高まりを成長への好機と捉え、株式会社 Welbyなどのパートナーによるデータ収集の強化や生活者（消費＋健康）の領域拡大も図る
- データを価値化する力の強化に向けてデータサイエンス系人材育成（投資）を加速化

成長戦略 ビジネスインテリジェンス事業

- デジタルシフト/スマートシフトへの環境変化を捉え、グループ全体の顧客に対する仕組み化の支援とともに、グループ内においてもIT面で支援していく

Marketing Support

Consumer Goods & Services

マーケティング支援 消費財・サービス 事業

業績について

主力事業であるパネル調査が好調に推移いたしました。また、オフライン調査など新型コロナウイルス感染症の影響を受けておりましたカスタムリサーチについても、WEB調査などが好調に推移し前年を上回る水準に回復しました。コミュニケーション分野は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け苦戦を続けておりましたが、第3四半期以降は復調傾向にありました。株式会社インテージリサーチにおける官公庁案件も好調を維持しました。

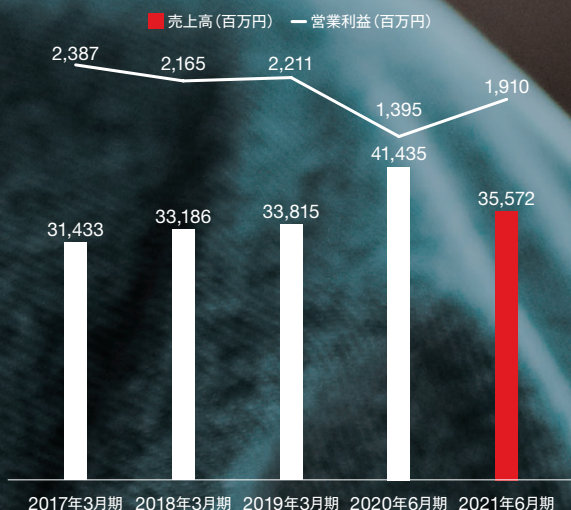
海外事業についても、引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受け、インド、香港をはじめとするアジア各国の売上が低調に推移しましたが、当第4四半期連結会計期間では回復傾向にありました。一方2020年3月に子会社化したオンライン調査を主業務とする株式会社データスプリングは好調に推移しました。

利益面については、投資が増加したものの株式会社インテージリサーチの増収や株式会社データスプリングの貢献により増益となっております。

主な事業内容

事業会社の株式会社インテージを中心に企業のマーケティング活動をサポートしています。マーケティングリサーチは、企業のあらゆるマーケティング課題に対して、有効な意思決定をサポートするために行う科学的な調査・分析のことを指します。

売上高・営業利益



当社は決算期を従来の3月31日から6月30日に変更いたしました。2020年6月期は2019年4月1日から2020年6月30日の15カ月間となったため、15カ月間の数字を記載しています。

パネル調査

SCI®

全国消費者パネル調査

どんな世帯・個人が、何をどこで、いくらで買っているのか

全国の15~79歳の男女5万2,500人を対象に、屋内外で消費する食品、飲料、日用雑貨品などの購買データを専用スキャナーやスマートフォンのアプリを利用して収集。消費者の購買行動を詳細に捉えた高品質なデータをもとに、インサイトを提供する日本最大の消費者パネルです。

SRI+®

全国小売店パネル調査

いつ、どこで、どんなものが、いくらで売れているのか

スーパーマーケット、コンビニエンスストア、ドラッグストアなど、全国の主要小売店約6,000店舗を対象に、食品、飲料、日用雑貨品などさまざまな商品のPOSデータを収集。各業界標準のインデックスとして、この分野で圧倒的な強さを誇っています。

カスタムリサーチ

国内外の顧客の課題に応じて行うカスタマイズ型の調査。多種多様な調査手法と独自の分析力をベースに、リアルな市場の実態を反映した価値ある情報を提供しています。

主なリサーチ手法

オンライン調査 インターネット調査、コリサ(位置情報ログを基にしたアンケート配信サービス)
定性調査 グループまたは 1 on 1 インタビュー、リモートインタビュー
非言語調査 アイトラッキング調査、表情解析を使った広告クリエイティブ調査、ニューロリサーチ
オフライン調査 郵送調査、ミステリーショッピング(覆面)、店頭陳列調査、CLT(会場テスト)、店頭アンケート、訪問調査

業界最大のインターネットリサーチモニター



マイティモニターアクセスパネル

384万人※



マルチデバイス
モニター

Point 1
業界最大規模の
モニターフィールド

Point 2
市場反映性の高さ

Point 3
高品質なデータ

弊社では、国際基準に則ったより適切なパネル管理のため、過去1年間に調査にご協力いただいた方、または、属性を更新した数を公表しています。

※2021年10月現在

競争優位性

SCI®(全国消費者パネル調査) 約5万2,500人

SRI+®(全国小売店パネル調査) 約6,000店舗

インテージシングルソースパネル 約3万人

モバイル空間統計 約7,600万人

スマートテレビ視聴データ 約229万台

※2021年9月現在

Marketing Support

Healthcare

マーケティング支援 ヘルスケア 事業

業績について

株式会社インテージヘルスケアにおいて、リサーチ事業は一般用医薬品に係るパネル調査が堅調に推移し、医療用医薬品に係るカスタムリサーチも、医師に対するWEBアンケートなどが好調であり前年を上回る水準で推移しました。株式会社医療情報総合研究所*が手掛けるレセプトデータ分析も前期からの好調を維持しております。

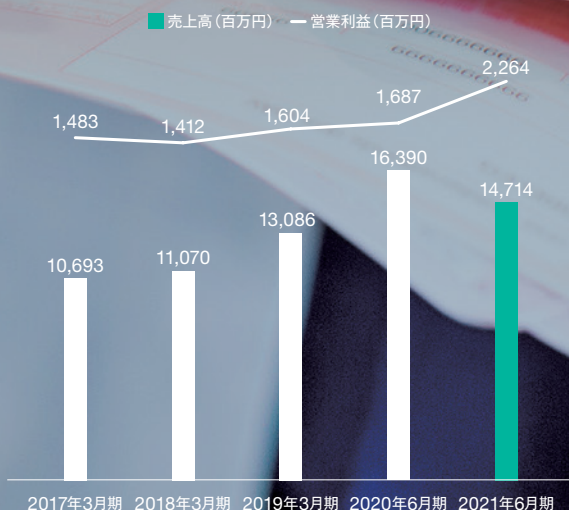
一方、CRO（医薬品開発業務受託機関）の製造販売後調査は、プロジェクトの小型化や不採算案件の発生にともない収益性が低下しているため、改善に向けて取り組んでおります。株式会社協和企画におけるプロモーション事業は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い案件スケジュールの再設定が発生しましたが、医薬品販売促進資材のデジタル化、イベントのオンライン化の取り組みにより収益は改善しつつあります。

利益面については、カスタムリサーチやシンジケートデータの売上の増加により増益となっております。

主な事業内容

事業会社の株式会社インテージヘルスケアを中心に製薬企業向け、医薬品開発の受託およびマーケティング活動をサポートするためのサービスを提供しています。

売上高・営業利益



当社は決算期を従来の3月31日から6月30日に変更いたしました。2020年6月期は2019年4月1日から2020年6月30日の15カ月間となったため、15カ月間の数字を記載しています。

一般用医薬品の市場調査

一般用医薬品は、医師による処方箋を必要とせず購入できる医薬品のことで、市販薬、家庭用医薬品などと呼ばれ、消費者の生活にとっても身近な商品です。インテージヘルスケアでは、薬局やドラッグストアなどの小売店データおよび購買履歴を取得した消費者データに加え、カスタムリサーチで製薬企業のマーケティング活動をサポートしています。



医療用医薬品の市場調査

医療用医薬品は、主に病院などの医療機関の医師の診断と処方に基づき使用される医薬品です。インテージヘルスケアは医師・医療従事者・患者の行動や意識の深い理解のもと、医師の薬物治療・処方実態調査、医療消費者・患者の実態調査をはじめ、医薬品のプロモーション活動評価などを豊富なソリューションやツールでサポートしています。



CRO（医薬品開発業務受託機関）

新薬の開発は、基礎研究に始まり数多くのフェーズがあり、10年以上もの長い期間と膨大な労力や費用がかかります。その過程の中で、製薬企業が行う臨床試験や製造販売後調査などに係るさまざまな業務を代行・支援する組織がCROです。インテージヘルスケアは25年以上にわたる受託実績があり、自社開発システムなどのIT基盤も有しています。



その他（プロモーション、処方情報分析など）

プロモーション インテージのヘルスケアグループの一員である株式会社協和企画では、医療に係るプロモーション事業を展開しています。医療関係者または一般の生活者に向けた各種学会・団体、製薬企業などの広告制作に関し、立案から実施まで幅広く展開しています。また、医療従事者向けの各種セミナー・シンポジウムの運営も行っています。



処方情報分析 インテージのヘルスケアグループの一員である株式会社医療情報総合研究所*では、全国の調剤薬局からの大規模な処方データを集積したデータベースを所有し、高い速報性と豊富な分析力で製薬企業のマーケティング・製品戦略強化を支援しています。また、薬局薬剤師を通じた患者へのヒアリングなどにより、医薬品の適正使用、製品マーケティング活動に有効な情報提供も行っています。



* 株式会社医療情報総合研究所は2021年7月1日をもって株式会社インテージリアルワールドに社名を変更しております。

Business Intelligence

ビジネスインテリジェンス事業

業績について

株式会社インテジテクノスフィアにおいて、新型コロナウイルス感染症の影響が大きい旅行業界を中心に既存業界向けのソリューションの売上が減少しました。一方で、株式会社ビルドシステムはローコード開発案件の獲得に伴い大幅に伸長しております。なお、AIソリューションについては、自動車・公共分野などの重点顧客への深耕を図り、次年度の案件獲得を進めております。

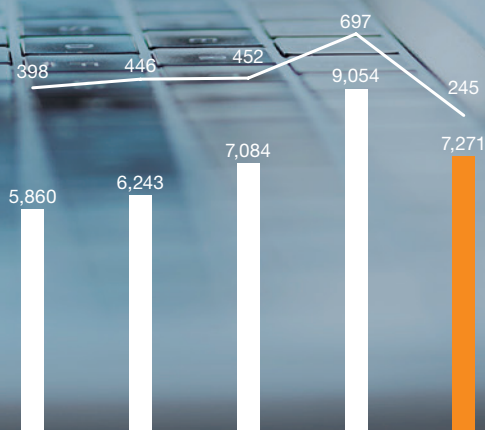
また、中期経営計画で掲げております「お客様のDX推進パートナー」の実現にむけオンラインセミナーの開催、WEBページリニューアルと活用、DX支援のサービス化、インテジグループの総合力を活用した顧客課題解決への提案など積極的な営業活動を展開しております。利益面については、新型コロナウイルス感染症による売上減少の影響を受けております。

主な事業内容

事業会社の株式会社インテジテクノスフィアを中心に、データ解析関連システムの開発、業界別ソリューションを提供しています。近年は、長年データに関わるビジネスを行ってきたことにより、AI技術を使用したデータ活用でも活躍の場を広げています。また、インテジグループ全体に対し、インフラ構築・運用・保守およびビジネス推進を支えるソフト領域での支援などIT面で支えています。

売上高・営業利益

■ 売上高(百万円) ▬ 営業利益(百万円)



2017年3月期 2018年3月期 2019年3月期 2020年6月期 2021年6月期

当社は決算期を従来の3月31日から6月30日に変更いたしました。2020年6月期は2019年4月1日から2020年6月30日の15カ月間となったため、15カ月間の数字を記載しています。

ビジネスインテリジェンス

システムの開発・運用、BPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）、データセンター運用、データ活用ビジネス

リサーチテクノロジー

インテジグループのマーケティングリサーチをITで支援。ビッグデータ集計・加工・データベースの部分を担当

お客様

医薬・健康情報・製造業・旅行・出版・消費財メーカー・サービス・広告代理店・卸・小売り

データサイエンス

データのモデリング、データサイエンステクノロジーを使用した企業向けソリューション・研究、AI活用

情報システム

インテジグループ共通のITプラットフォームの企画・構築・導入・保守・運用。顧客向けITインフラの構築・運用・導入支援・監査

システムの構築、運用など、いわゆるシステムインテグレーションが事業であり、お客様の業界は、医薬・製造業・旅行・出版・消費財・サービス業など多岐にわたります。なかでも、1960年の創業以来、インテジグループではシステムおよびデータに関するビジネスに携わっており、特に医薬・運輸・健康管理の分野においては長年の経験・ノウハウをもとにサービスを提供し続けています。



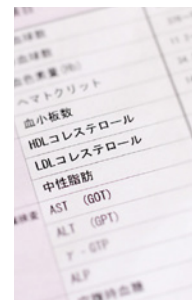
医療

営業情報・営業支援・進捗管理システム、BPOサービス



運輸(旅行・観光)

旅行代理店向け精算・顧客満足度調査アンケートなどのシステム



健康管理

企業の健康管理に関する業務支援ソリューション